

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 5 月 11 日作成)

委員会名	ラーバンデザイン小委員会	主 査 名：鎌田元弘
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：藤本信義
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	日本型ラーバンの研究フレームの整理 (2002 年度) 海外事例にみるラーバンの要件整理 (2003 年度) ラーバンデザインのためのコンセプト構築 (2004 年度) ラーバン実現化のための諸問題の検討 (2005 年度)	
委員構成 (委員名(所属))	主査：鎌田元弘(千葉工業大学) 幹事：神田徳蔵(東京理科大学) 委員：坂本淳二(広島国際大学)・相羽康郎(東北芸術工科大学)・浦山益郎(三重大学) ・加藤正之(加藤正之建築研究所)・蟹江好弘(足利工業大学)・斎尾直子(筑波大学) ・佐久間康富(早稲田大学)・竹内壽一(竹内建築総合研究所)・武部瑞子(東京工業大学) ・柝倉肇(大広)・波多野憲男(四日市大学)・前田真子(奈良女子大学)・三国政勝(千葉大学)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	200,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回：2003 年 9 月 6 日・ 8 名 第 2 回：2004 年 1 月 14 日・ 9 名 第 3 回： 3 月 8 日・ 7 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>当小委員会では、前身であるラーバンデザイン合同小委員会の時も含めて、これまでに 4 回の研究懇談会を企画してきた。今年度はそれらを総括する形で、大会時にオーガナイズドセッション「我が国におけるラーバンの概念」を企画した。小委員会の委員外からも幅広い意見が集まり、その企画・準備段階および当日の議論を通し、国内外の事例を踏まえ、ラーバンの概念の整理を行った。</p> <p>また、蟹江委員(前主査)を中心にこれまでの 4 回の研究懇談会資料を再編集し、解説を加えて「ラーバンエリアの諸相とラーバン像」というタイトルで冊子をまとめた(足利工業大学総合研究センター助成)。</p> <p>これまで小委員会では、ラーバンあるいはラーバンデザインをキーワードとして、視点を広げる形で問題を提起し議論してきたが、上記のように、今年度はそれらの議論を踏まえてその概念や論点の整理をテーマとして活動してきた。今年度の整理は、その第一段階というべきものであるが、その成果を出版物にするという目標のもとに行っており、出版物の具体的骨格についても検討を行ってきた。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>大会時のオーガナイズドセッション「我が国におけるラーバンの概念」の企画が今年度の活動の出発点である。当初の活動計画にあった「海外事例」を中心に据えた活動にはならなかったが、「ラーバンの要件」に関しての議論・検討は深めることができ、成果物の出版に向けた活動になったことは大きな成果である(ラーバン出版 WG の 2004 年度設置が認められた)。</p>
その他評価すべき事項	<p>今年度の小委員会は、若手、女性、実務家など多様な層の委員が加わり、委員会内においても様々な視点から活発な意見交換がなされた。ラーバン、ラーバンデザインという新しいテーマに取り組む小委員会にとって望ましいことと評価している。</p>